

2024-25 年度 第2650地区スローガン

持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動

Make Rotary Sustainable! Learn together Act together

第2650地区 [1961.3.28創立]

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

会 長	池 木 啓 仁
副 会 長	中 井 謙 之
幹 事	丸 野 正 徳
会報・資料委員長	杉 村 喜 之

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール

事務所：〒635-0095 大和高田市大中 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

第29回(通算3028回)2025年(令和7年)3月11日号

本日の例会(3月11日)

「奈良大宮RC周年記念事業の
テーマについて」
奈良大宮RC直前会長 植村将史 様

次回の例会(3月25日)

第4回クラブフォーラム(社会奉仕)

3月4日の例会報告 会長の時間

東大寺のお水取りが始まっております。これが終われば春はもうそこまでやってきます。毎年のごですが、やっぱり春は待ち遠しいのです。

さて、少子化の影響で人手不足が深刻化しております。当社も若年労働者不足への対策として、近年、外国人従業員を採用してまいりました。特に、アジアの国々からやってきた彼らは、日本とは異なる習慣や文化を持っております。例えば、ネパール人はヒンドゥー教徒が多く、ヒンドゥー教徒にとって牛は神様の使いです。そういうことで、牛肉を使った料理はできませんが、牛肉は駄目でも、水田などを耕す水牛は問題ないということです。

また、中国やベトナムの干支には、日本と違って、猫や豚がいます。日本人は猫の鳴きまねをするとき、「ニャーオー」といった鳴きまねをしますが、ベトナム語では「ミャーオー」は貧乏人という意味なので、使い方に注意しなければ悪口になってしまいます。

また、これからの日本は少子化と多様性が進み、人口が減り続けます。そうすると、就職市場は売り手市場になるわけですが、皆がすべからず優秀であるとは限りません。日本人というだけで優先的に採用される時代ではなくなっていくのではないのでしょうか。外国人も含めた人材間の競争が当たり前になっていきます。

移民が多くなれば、欧米諸国のような問題が起きるでしょうし、現に日本でも一部、移民問題が起きている地域が発生しております。外国人の採用が良いことばかりではないことも含め、近い将来、これが目の前にある現実だと痛感した次第です。

世界各国の常識が実は日本の非常識になっていることは実に多く、これらの気づきも実際に関わり合ったことで得られたものかなというふうにも思います。

幹事報告

◎第9回定例理事会のご報告

1. 社会奉仕委員会事業について 承認
4月20日(日)開催の「高田川の歴史を再発見 高田めぐりスタンプラリー」のご報告を吉岡社会奉仕委員長からいただきました。

ゲスト

高藤三千代様(大学講師 比較教育学・人類学者
卓話講師)

誕生日祝

樫根正起会員(3月5日)村島靖一郎会員(3月9日)

結婚記念日祝

下村敏博会員(3月4日)牧浦 徹会員(3月5日)

創業記念日祝

高木美香会員(3月8日)當麻泰己会員(3月10日)

委員会報告及びその他報告

◎雑誌・IT委員会 中井俊之委員長
今月号の『ロータリーの友』のご紹介をいたします。7ページに、震災等、有事のときのトイレ問題について記事が掲載されています。私も阪神大震災の復興支援に3か月ほど行っておりますが、その際、トイレの大切さを実感いたしました。12ページには、ダンボールでできた簡易トイレのご紹介をされています。高木包装さんでも取り扱いされているとのことですのでご相談いただければと思います。15ページから19ページに、2025-26年度のRI会長マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏の記事が掲載されています。

◎葛城・當麻地区情報集会 川中教正世話人
情報集会を4月8日(火)午後6時よりヴェルデ辻甚で開催いたします。出欠のご返信をお願いいたします。

◎新庄地区情報集会 山田幸雄世話人
3月25日(火)午後6時より西大和さえきで情報集会を行いますので、ご参加の程よろしく願いいたします。

◎社会奉仕委員会 吉岡弘修委員長
本日の理事会で歴史ウォークのご承認をいただきました。いよいよパンフレットも仕上がりました。本日の例会終了後、第4回委員会を開催いたします。

◎高田地区情報集会 西田陽昭世話人
情報集会の方法について、先日アンケートを取らせていただきました。その結果、食事を伴う、いつものような形が良いというご意見が多くございました。そこで、4月22日(火)午後6時からヴェルデ辻甚で開催させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

4つのテスト[言行はこれに照らしてから]

1. 真実か どうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるか どうか

ニコニコ箱

・昨日、故林田壽昭氏のお別れの会に行ってまいりました。ロータリアンの皆様をはじめ、多くの皆様が来られており、改めて心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、本日の卓話の講師、高藤先生よろしくお願ひいたします。 池木啓仁会員
・高藤三千代様、ようこそ当クラブへ。卓話よろしくお願ひいたします。 丸野正徳会員
・職業奉仕講演会に多数のご参加いただきありがとうございます。 村島靖基会員
・林田壽昭のお別れの会、ご参会のお礼。

林田光治会員
・老骨も91歳になりました。変わらぬご厚誼をお願いいたします。 村島靖一郎会員
・元気にしています。 植野昭三会員
・鍛山部屋お稽古に見学に行きました。大阪場所頑張ってください。応援しています。 植田直穂会員
・誕生日祝を頂いて。

山田幸雄会員 西田陽昭会員
・結婚記念日、妻に感謝。 一ノ坪英二会員
・良いことがありました。 俵本和美会員

卓話「人類学と教育と私」

大学講師 比較教育学・人類学者



高藤三千代 様
大学で講師をしておりますと、学生さんの置かれている状況に社会状況が大きく関係していることが分かります。例えばその一つにグローバル経済、新自由主義の影響があります。これは、市場の原理に基づいて物事を行っていくという考え方で、アメリカの経済学者でシカゴ大学の経済学教授のミルトン・フリードマン氏が提唱し、イギリス・アメリカといったアングロサクソンの国から世界中に広まってまいりました。日本においても、教育分野の中にこの考え方が入ってきております。

私の専門は、人類学の中の文化社会人類学という分野です。特に教育に注目して研究しております。キーワードは文化になります。文化というのは、人間が人間であるためには不可欠なものです。人は生まれてくると、どこかの社会に所属します。家族や共同体で人と関わり合って、共有している生活習慣、物の考え方、言語を身につけて人間になっていきます。

まず、私の経験からお話をいたします。私はバブル世代です。日本が好景気だったときに、学生、就職を経験しました。今は3つの大学で非常勤講師をやっております。旅行会社、外資系の銀行を経て、高校生のときから学んでみたいと思っていた、教育心理学を学ぶため、アメリカの大学院へ留学して学位を取りました。

私が学生だった時代は、受験戦争、不登校、校内暴力、いじめの問題が発生しており、管理教育が広まっていた時代です。ただ、私が通っていた大阪の公立小学校は、体育や図画工作、音楽などに重きを置いており、成績評価も「できた」「がんばろう」の2段階評価でした。授業も教科書をあまり使わず、先生方が工夫をしてくださったので、学校に行くのが楽しかったものです。

中学に進学すると、状況はがらりと変わりました。定期テストのために授業するというような状況でした。高校生の頃、雑誌か新聞のコラムで教育心理学という言葉を見つけました。その言葉とともに、子ども

たちが独自に学ぶことについて書かれていました。それをもっと知りたいと考えましたが、高校の先生もよくご存じなく、後に留学して学ぶことになりました。

留学先では、還流型の日系移民について研究いたしました明治期、第二次世界大戦後と、日本人は主に南米諸国に移民として渡ります。現地で国籍を取られた方々の子孫が、後に日本へ働きに来られるようになります。

1989年に入管法が改正され、定住者カテゴリーという在留資格ができました。この在留資格は、日本人の血を引く外国籍の人たち、その3世代までと、配偶者が対象であり、日本で法律を犯すことがなければ、日本に移り住み、どんな仕事にも就くことができるというものです。名目上は、日系人の方々に、日本文化に触れてもらいたいということでしたが、実質的には、もう既に始まっていた日本での少子化、労働力不足、特に3K「きつい・汚い・危険」という分野での深刻な労働力不足を補うことを考えたものでした。特殊な技能を持っていなくても、単純労働の職場で働くことができるという法律の枠組みなので、多いときには1年間に30万人もの人々が日本にやってまいりました。現在では、中近東や南アジアから不法滞在で日本で働くという外国人労働者の人たちもとても増えてきております。そうすると、そのお子さんたちの教育問題も出てきております。

そのほかにも、もう一つ、技能研修制度というものがありました。これは短期間、日本に来て働きながら、お給料ももらい、働きながら技能を身につけて国に帰ってもらおうという仕組みです。研修制度とも言えますが、外国人に日本の職場で働いてもらえる制度です。制度ができたときには、日本では外国人労働者を多く受け入れていなかったのですが、このような仕組みになったようです。2019年には、実質的に外国人労働者を様々な分野で受け入れるという法律ができました。これは特定技能1号、2号という枠組みで、最長5年間の滞在期間となりました。延長すると10年から20年程度の雇用も可能で、最終的には永住もできるという仕組みになりました。家族を伴って日本に移り住むことも可能です。

こういった背景にあるのがグローバル化です。人と物とお金と情報の動きが活発化して、国の枠を越え、地球規模でつながるようになりました。このグローバル化、経済の動きを支えているのが新自由主義的な考え方です。

一方で、国内ではどんな状況が起こっているのでしょうか。近代の国民国家では、均質化、等質化が起こります。日本で言えば、明治時代以前は、国内でも標準語が十分でなく、コミュニケーションを取るのも大変だったようです。現在は、地球全体で文化的に人々の暮らし、考え方、価値観がどんどん似通ってきてはいます。しかし、一方で国内において、従来の考え方のほか、外国の価値観が入って多様化が進み始めています。

そういう中で、現代社会の課題と言えるのが少子化です。外国に背景がある人たちとどうやって日本社会で共生していくかということが大きな課題となってきました。

教育の置かれた状況は、全国学力調査によるテスト漬け、規制緩和による非正規教員の増加、教員免許の更新制度導入などで教員不足も起きています。

こういう状況の中で、これからどのようにしていくべきかということを考えてまいりたいと思います。

出席報告	会員 総数	出席 義務 会員数	義務 会員 出席数	義務 会員 欠席数	義務 会員 MU	出席 免除 会員数	免除 会員 出席数	免除 会員 MU	出席率
3月4日	89	58	52	6	1	31	20	1	93.67%
2月25日	89	58	49	9	0	31	23	0	88.89%
2月18日	89	58	52	6	2	31	25	0	95.18%

※食品ロスの削減に努めましょう。(2月25日の弁当残数は4個)